

陳 情 文 書 表

(令和6年3月18日)

受理番号・受理年月日及び件名	陳情第77号(6.3.11) 市バス運賃の値上げ中止とバス路線の充実を求める陳情
陳情の要旨	1. 市バス運賃の値上げは中止すること。 2. 兵庫区の南北交通を改善するため、減便や市バス路線の再編は見直して、市民の声を活かした利用しやすいバス路線にすること。
陳情者の住所及び氏名	神戸市兵庫区 東 孝子 その他署名者あり(申告数1016筆)
送付委員会	都市交通委員会

2024年3月11日

神戸市兵庫区

東 考 考 考

神戸市会議長 坊やすなが様

TEL

## 市バス運賃の値上げ中止とバス路線の充実を求める陳情

市バスは、最も身近な公共交通であり、暮らしに欠かすことのできない市民の足としての重要な役割を果たしています。

ところが、「将来にわたって、公営交通として安全かつ安定的に事業を継続するため」として、210円から230円へ市バス運賃の値上げが検討されています。

物価高騰が続き、暮らしは大変になっています。このまま値上げをすれば、負担が増えるため利用を減らさざるをえない市民が増加してしまいます。これでは本末転倒ではないでしょうか。市民が気軽に市バスを利用し、外出すれば、消費行動につながり、神戸経済の活性化につながります。高齢者が趣味や楽しみのためにでかければ、生きがい、健康づくりにつながり、介護・医療費の削減につながります。すべての市民が安心して利用できるように値上げは中止をしてください。

また、2024年4月から兵庫区、長田区を中心に市バス路線の再編、減便が計画されています。兵庫区は以前から南北交通が課題となってきました。ところが今回の再編は、現行から100本もの便数を減らす計画であり、さらに不便になります。減便は、他のルートの振り替えで補うなどといわれていますが、それではカバーしきれない地域がたくさん出てくることになります。また今回の値上げや路線再編、便数削減について説明会をされたとのことですが、多くの市民は参加できておらず、不安が広がっています。

地域の市民の声を具体的に聞き、減便やバス路線再編で縮小するのではなく、充実をさせて、乗客を増やすためにも、市民の声を生かした便利な路線にしてください。

また、「みんなのバス」が本格運行となりましたが、敬老バス、福祉バスが利用できなくなりました。運営企業に頼るだけではなく神戸市が支援をして、敬老バス、福祉バスを利用できるようにしてください。

### 陳情項目

1. 市バス運賃の値上げは中止すること。
2. 兵庫区の南北交通を改善するため、減便や市バス路線の再編は見直して、市民の声を活かした利用しやすいバス路線にすること。
3. 「みんなのバス」で敬老バス、福祉バスが利用できるように神戸市が補助すること。

都市交通委員会所管分は  
陳情第77号

福祉環境委員会所管分は  
陳情第78号

署名提出あり:申告数 1,016筆

# 市バス運賃の値上げ中止及び市バス路線の充実を求める陳情

陳情第77号

交通局

陳 情 要 旨 等	
陳情者	神戸市兵庫区 東 孝子
陳情要旨	<p><b>市バス運賃の値上げ中止と市バス路線の充実について</b> 【陳情第 77 号】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市バス運賃の値上げは中止すること</li> <li>2. 兵庫区の南北交通を改善するため、減便や市バス路線の再編は見直して、市民の声を活かした利用しやすいバス路線にすること</li> </ol>
陳 情 に 対 す る 神 戸 市 の 考 え 方	
<p><b>1. 市バス運賃の値上げについて</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による移動需要の減少、変化や少子高齢化、人口減少社会の到来に加え、昨今の原油高・物価高等による諸経費の増加など公共交通を取り巻く環境は極めて厳しく、市バス及び地下鉄はこれまで経験したことのない危機的な状況にある。</p> <p>特に、市バス事業については「神戸市営交通事業 経営計画 2025」に掲げる経営改善策を着実に実行してもなお、令和 14 年度時点で 159 億円の資金不足が発生する見通しであり、現状でも事業継続そのものが成り立っていない状況にある。</p> <p>こうした状況下において、公営交通として安全かつ安定的に事業を継続していくためには、今後も最大限の経費削減や増収対策など、さらなる経営努力を続けていく必要があると考えている。具体的には、職員や車両のさらなる稼働率向上や運行体制の見直し、保有資産の一層の利活用等の企業努力に加え、需要に見合った路線・ダイヤの適正化などに取り組むとともに基金も活用することで、令和 14 年度までの累計で約 88 億円の経営改善を図っていく予定としている。</p> <p>一方で、これらのさらなる経営改善に取り組んでもなお、令和 14 年度時点の資金不足額は 70 億円超を想定しており、事業存続の岐路にあると考えている。</p> <p>そのため、早期に危機的経営状況を脱却していくため、短期的な収支改善の観点において、原油高をはじめ、諸物価、労務単価、金利高騰など企業努力だけでは吸収しきれない外的要因による経費について、ご利用者の方にも一部ご負担をお願いしたいと考えており、ご理解いただきたい。</p> <p>また、運賃改定を行うだけでなく、市内バス路線における運賃・サービスを統一化し「神戸のバス」として市民が利用できるよう、サービスのシームレス化に取り組むことで民間バスを含めた公共交通全体のサービス向上による利便性向上など、より利用いただきやすい環境づくりに努めていく。</p> <p><b>2. バス路線の充実について</b></p> <p><b>(1) 現状と市バス路線再編の基本的な考え方</b></p> <p>市バス事業は、運営の中で日々得られる客観的なデータからご利用状況を把握するとともに、市民・利用者のご要望や地域の実情も踏まえながら、将来にわたり持続可能なバス路線網や事業経営体制を構築していかなければならないと考えている。</p> <p>新型コロナウイルスの影響や物価高騰等に起因する現在の危機的な経営状況において、現状の路線・運行本数をそのまま維持していくことは困難であり、将来にわたって市民の日常生活を支えていくためにも、利便性の向上に努めつつ、令和 6 年 4 月にバス路線の再編を行う。</p> <p>路線再編の基本的な考え方として、便数については、2 タッチデータに基づくご利用状況を考慮するとともに、ルートについては、山麓部はバス以外の代替交通手段がないといった地域特性や、東西に充実した鉄道網と市バスとの役割分担を図り、鉄道ではカバーしきれない高低差のある南北移動を担うこと、鉄道駅と一定距離があるような地域などバスが日常生活を支える地域の利便性の向上を図ること等を考慮することとしている。</p> <p><b>(2) 兵庫・長田の路線再編の考え方</b></p> <p>兵庫・長田のバス路線については、バス以外の代替交通手段のない山麓部ではご利用が多い一方、鉄道路線網が充実している中南部地域では山麓部ほどの需要はなく、ご利用が比較的少ない状況にある。このような需要の濃淡に対し、総じて同レベルの供給を行ってきたことから、山麓部では更に供給を充実させ</p>	

るべき箇所がある一方、中南部地域では供給過多になっているといった需給の濃淡が生じている。

例えば、兵庫・長田エリアを大きく循環している3系統では、ご利用に濃淡があるにも関わらず、朝夕ラッシュを除いた運行は山麓部、中南部とも同一の便数となっており、供給が多い箇所から需要のある箇所に便数を再配分すべく、今回6系統の運行ルート変更、93系統新設などの手法を用い、3系統自体は減便するものの、山麓部での便数は従来を維持、また循環系統としての利便性を損なわないよう規模を縮小して維持することとした。

また、長田の重池地域など、高低差や鉄道駅からの距離等の要素を踏まえ、バスが日常生活を支える地域では増便するなど利便性の向上も図っている。

さらに、現在の9系統ルートのうち、他の多くの路線と重複している湊川公園西口～平野～大学病院前～神戸駅前間の運行は取りやめることとしているが、11系統の一部運行ルートを変更し、平野～大学病院前～神戸駅前とするなど、ルートの振替や乗り換えを含め移動機会の確保を図っている。

今回の路線再編にあたっては、地域の懇談会などでこれまでにいただいているご要望について反映できるところは反映するとともに、市バスICカード2タッチデータによる客観的な乗降データを活用しつつ、地域の様々な事情も考慮しながら検討を行っている。

また、昨年9月以降、兵庫・長田の地域団体など地域の皆様への説明も行っているところであり、交通局からお示した再編の当初案では、乗継が必要となる新長田駅から西市民病院への移動について、通院の利便性確保等のご要望が複数寄せられたことを踏まえて再検討を行い、通院目的でのご利用が見込まれる午前の時間帯については、直通運行を維持することとした。

路線再編後の各系統のご案内について、兵庫区長田区の皆様には広報紙KOBÉ3月号でお知らせをさせていただいたが、今後バス停留所やバス車内、ホームページ等での案内などを行っていくとともに、路線再編後も、2タッチデータによる客観的な乗降データをもとに、ご利用状況に応じた見直しを図っていく。